



異端児を擁立して 主導権を握る勢力

金融アナリスト
永山卓矢

【外交・安保政策で主導権を握る人物】

20日、米国では正式にトランプ政権が成立した。新大統領は就任して早速、環太平洋経済連携協定(TPP)からの離脱を正式に決定し、北米自由貿易協定(NAFTA)の見直しに向けた再交渉に臨む事を表明した。

もとより、トランプ新大統領は本来的に貿易・通商問題以外に関心がないようだ。多国籍企業を“恫喝”して米国内に生産工場を建設させたり、貿易赤字をもたらしている相手国を“脅して”、強引にその縮小を迫っている。さらに始末が悪い事に、新大統領の“思考回路”は80年代の状況で止まっているようであり、今ではそれほど黒字を計上していないにもかかわらず、日本までもが“悪者”にされてしまっている。

トランプ新政権は既に正式に発足する以前から中国に対して厳しい姿勢を打ち出す一方でロシアと和解、また親イスラエルの姿勢を見せている。ほとんどの期間にわたりバイデン前副大統領を中心に反イスラエルの親中国的な外交問題評議会(CFR)系が、また政権末期にはクリントン元国務長官を推した反ロシア的な民主党系新保守主義(ネオコン)派が主導権を握ったオバマ前政権の外交政策が抜本的に修正される事になる。

ところが、トランプ新大統領はそうした外交・安全保障問題には“ド素人”とでも言い得るほど疎いようだ。

実際には、そうした問題についてはペンス新副大統領が主導権を握っているだけでなく、閣僚の人選も彼が一手に握っているようなのだ。次期閣僚候補の議会での公聴会の発言内容が新大統領のそれと異なっているのはこのためである。

例えば、12月2日にキッシンジャー元国務長官が訪中して、習近平国家主席と会談している最中に、トランプ大統領に台湾の蔡英文総統と電話協議をさせたのはペンス副大統領であるようなのだ。また、年明けに蔡総統が中米各国を歴訪する際に米国に立ち寄った8日、クルーズ上院議員と会談させたのも副大統領であるようだ。副大統領自身はカトリック、一方上院議員は福音派といった違いはあるが、キリスト教原理主義(エバンジェリカル)という点で共通している。いかに反中国的な姿勢を強めているとはいえ、次期副大統領が台湾の総統と直接会談すると衝撃が大きいので、代わりに上院議員に会わせたのだろう。

【副大統領の背後で暗躍する勢力とは？】

そこで、このペンス副大統領がどのような経緯でその地位に就いたのかが問題になってくる。

当初、トランプ大統領は次期副大統領に政権移行チームの幹部であるクリスティ・ニュージャージー州知事かギングリッチ元下院議長を就けることを考えていたとされ、ライアン現下院議長と盟友関係にあるとされる副大統領を嫌っていたという。

実際、ペンス副大統領は本来的に自由貿易主義者であり、NAFTAやTPPに賛成する姿勢を示しており、新大統領の路線とは明確に異なる事を主張していた。にもかかわらず、そうした人物を次期副大統領に指名する事になったのは、議会共和党の主流派と関係を悪化させないことを望んでいる家族の強い説得によるものであったとされている。

ただその家族にペンスの副大統領就任を強く働きかけたのは、2000年代のブッシュ元政権下で実質的に最高実力者として君臨したチェイニー元副大統領と、イスラエルの保守政党リクードへの最大の献金者である「ラスベガスの不動産王」アデルソン氏であったという。この両氏が、トランプ大統領の娘のイヴァンカ女史の夫のクシュナー氏を通じて働きかけたとされる。

実際、ペンス副大統領もチェイニー元副大統領を非常に尊敬しており、これから副大統領に就任するにあたり、元副大統領を手本にしていくと述べている通りだ。

チェイニー元副大統領やアデルソン氏、クシュナー氏といった顔ぶれからうかがわれるのは、トランプ政権の性格が石油・軍需産業系が後押ししている好戦的な共和党系ネオコン派や、親イスラエル右派の影響力が非常に強い性格であるという事だ。いわば、80年代にソ連を「悪の帝国」と呼んで軍拡路線を推進したレーガン政権や、2001年に謀略的に「9.11同時多発テロ事件」を引き起こして「対テロ戦争」を推し進めた2000年代のブッシュ政権と同じような性格であるといえる。

チェイニー元副大統領はその地位に就任する以前、ハリバートン社の最高経営責任者(CEO)であった。石油掘削施設や軍需関連産業で有名なこの企業は、実質的に金融のシティ・グループと並ぶ米国の巨大財閥の中核企業であり、世界最大の石油資本であるエクソンモービルの実質の子会社といっても過言ではない。

例えばレーガン政権下のシュルツ国務長官とワインバーガー国防長官はハリバートン社と同業種ともいえるベクトル社の社長、副社長であった。この会社は石油メジャーのソーカル(現シェブロン)の実質的な子会社。ソーカルは、サウジアラビアの王室政府を取り込むことで第二次世界大戦終了後の米国の政財界で主導権を握ってきた企業であり今回と良く似ている。次期国務長官にエクソンモービルのティラーソン前CEOが指名されたのも、チェイニー元副大統領を介し巨大財閥の意向が働いていると見て間違いなさだろう。

【何故、異端児が大統領に擁立されたのか】

米国の政財界の裏側を見ている識者の間では、トランプ新大統領はやがて暗殺されると予想する向きが根強いようだ。

しかし、こうした“異端児”が新大統領に擁立される事になったのにはそれなりの理由がある。本誌12月26日号では、欧州系巨大財閥が「一带一路」構想を提唱していた習近平国家主席主導の中国との提携を解消して米系巨大財閥と提携するにあたり、トランプ候補を次期大統領に擁立する事になったと述べた。

米系財閥としても中国を相手に「新冷戦」構造を構築していくにあたり、同国をロシアから切り離すためには共和党への政権交代が必要だった事がある。

さらにいえば、これまでのオバマ民主党政権下では、その大部分の期間でCFR系が主導権を握っていた事で、メディア業界の現状にも見られるように、金融業界とも密接な関係にある反イスラエル派や親イスラエル左派リベラル系が主導権を握っていた。それを新冷戦構造を構築して石油・軍需産業系主導路線に転換させていくにあたって、共和党タカ派の親イスラエル右派的な政権の成立が必要である事も指摘できる。そのためには大胆な刷新作業を行う上で既存の秩序を“破壊”する必要があるが、それには強烈な個性の持ち主であるトランプ新大統領にその役割を任せするのが適任なのである。

ただそうだとすれば、共和党系ネオコン派に主導権を与え、それを操っている米権力者層としては、所期の目的を達成し“用済み”になった時点でトランプ新大統領を交代させる可能性がある。

かつてレーガン、ブッシュ両元大統領も暗殺されはしなかった。しかし軍需産業系の「殺し屋」に脅され身動きが取れなかった。新大統領も、権力者層の意のままに動かないようだと失脚させられるかもしれない。その場合、ケネディ元大統領のように殺されなくても、ウォーターゲート事件で失脚したニクソン元大統領のようになるかもしれない。トランプ大統領は多くのメディアと対立して陰悪な関係になっているので、足を引っ張って失脚させるのは難しい事ではないはずだ。

なお、米権力者層がこうした“キチガイじみた異端児”を大統領に据えた理由については、トランプ大統領自身がこだわっている貿易・通商面からより本質的な要素が見えてくる。

機会があれば、じきに採り上げる事にする。

永山卓矢の「マスコミが触れない国際金融経済情勢の真実」

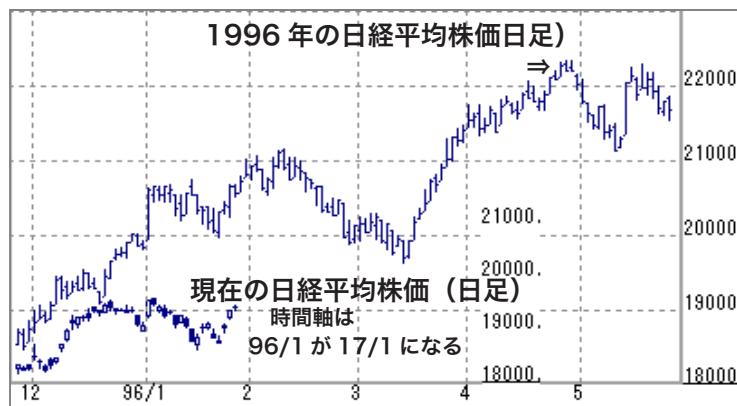
詳しくはこちらへ → <http://17894176.blog.fc2.com/>

ガデワニカル

高値更新視野に入る

先週の日経平均株は24日18,783の安値をつけた後、反騰に転じ、19,467で引けた。ほぼ1996年のフラクタルは継続されている。押し目形成後は1月5日高値19,615の高値更新は射程内。実際96年相場は1月24日ボトム、2月9日に向けて高値を更新した。このフラクタル分析については次の通りコメント「1995～96年の日経平均株価のフラクタルを参考に分析してみる。昨年末の本稿では“大発会大幅続伸の期待”と題して注目すべきは1996年の大発会は……前年末比750円高の大幅値上がりとなった。その勢いは6月まで続き、そこで22,750円の天井を付けた。これが年末年始に発生する可能性がある。1996年大発会同様、2017年1月大発会が大幅続伸となれば、700円高も想定内」。今年の大発会は500円近く上伸したがそこで高値をつけた後調整に入った。この動きはほぼ96年相場を再現している。今回はダブルボトムで二番目の安値を付けた日柄（1月24日）が同じ。ただ96年相場はこの上昇が2月まで続いた後、3月13日に向けてもう一度下落、1月の安値をやや下回った所でボトムをつけた。しかしそこが

最後の押し目買い場面となり、4～6月ダブルトップ気味の天井を付けるまで上昇した。依然としてこの動きを踏襲しているが、3～4月は警戒すべき時間帯。金星の逆行期に入るため高値を付け時間帯に入る。先週のコメント「1月後半からの上昇では2万円をトライすると見込む。ただし、今週の引け値で18,300を下回って引けてくれば、フラクタルから外れるので注意が必要」。このフラクタルを追いかけるが、何時までも続くわけではない



今週の押し

慌てず買い姿勢を踏襲

ユーロ／ドルに関して先週次の通り述べた“黄金分割から見た昨年11月高値からの下げ幅の修正高水準は、38%訂正水準で1.0707±0.0043。50%訂正水準で1.082±0.0057。62%訂正水準で1.087±0.0070と算出される。…上記どれかの値位置まで上昇し、その後どこまで下げるかが、今後の相場基調の指針を決めるのではないかな。…今週の段階で買いポジションは幾ばくか利食いしておいた方が良さと思われる。…現在はストキャスティクスが買われ過ぎ領域に入っており、基調転換する前に、修正安が先に来る事を想定しておくべきであろう。…その一方で、まだまだ今週も上昇を指向する可能性もある。その目安としては先述の50～62%訂正水準までの上げが想定されるが、そうなった場合は更に幾ばくかの利食いを推奨。来週頭、月末31日にはFOMCがある。そこでの何らかのサプライズが相場にプラスに働けば良いが、逆の可能性もあるだろう”。この方針に変更はない。現在69日平均がサポートポイントだ。

まだ、現行相場は15日スローストキャスティクスと弱気ダイバージェンスの関係になっていない。幾ばくか利食いして減玉していれば、3日安値割れを損切り水準に買い姿勢を踏襲し、上げなら更に一部利食い、下げなら1.05付近で再度利食い分を買い直す戦略が望ましいと筆者は考える。



アストロカレンダー

永井 元

今の話題はトランプ政権の行方だ。これは誰にも予測がつかないのではなかろうか。過激さでは過去にない大統領であるが、アメリカと世界に何を残すのだろうか。色々な意味で歴史に名を残すであろうことは言うまでもない。期待感よりも不安感が前面に出る大統領は初めてかもしれない。そして、影響力は大きい。

先月末に木星と天王星が180度を形成した。これはおよそ12年に一度。木星の逆行があるので、今年3月と9月に再度180度を形成する。直近で、逆行を伴って3回にわたって180度を形成したのは、1989年8月、12月、90年5月。バブルの天井の時だ。

その他の惑星の配置が違うので、必ずしも同じ状況が来るとは言えないが、やはり心配になる。

先月お伝えしたが、ブラックマンデーからまもなく30年になる。87年11月のこと。歴史が繰り返すならば、似たようなことが起きる可能性が高い。トランプ大統領による政策が何かしら影響するのであろうか。

国内を大切にするという方針は、外に対しては有無を言わさない選択をするということか。戦争も辞さないという判断をする恐れもある。世界中、危険な兆候ばかりだ。北朝鮮はこしばかり静かだが、ISも水面下で何をしているかわからない。

アストロカレンダー 2月 永井 元

	天文現象		注目マーケット		天文現象		注目マーケット
1	水	月赤道通過	為替・小豆・ゴム	16	木		
2	木			17	金	金星最大光度 水星・火星60度	商品全般
3	金			18	土		
4	土	上弦		19	日	下弦 月最遠	
5	日			20	月		
6	月	月最近		21	火		
7	火			22	水	月赤道最南	穀物
8	水	月赤道最北	穀物	23	木		
9	木			24	金		
10	金			25	土		
11	土	満月 水星・金星60度	全マーケット	26	日	新月	全マーケット
12	日			27	月	火星・天王星会合 火星・木星180度	株式
13	月			28	火		
14	火	月赤道通過	為替・小豆・ゴム				
15	水						

今週の相場風林語録

相場は気の世界【2】

「相場は人気の花」にも例えられる。
孫子兵法に「三軍は気を奪うべし」とある。

今週の**九星★波動** 実現の可能性は存外…

南雲 紫蘭

トランプ大統領が誕生しました。抗議デモなどが非常に活発で目立つため、そうした分裂を語ることが多いのですが、実際のトランプの支持は雇用と経済政策次第といえます。

現時点でトランプ大統領の施策を簡単に要約すると、法人税を世界的にも低い15%とするほか、海外の利益に対する税金も減らし、所得税も減税するといういいところ尽くしというもの。

財政の問題はあるものの、議会でも主力となっている共和党においては、こうした減税 — しかも、新大統領が強力に推進する政策 — に反対するのは難しいでしょう。

となると、実現性は極めて高くトランプ人気は大上昇、財政に対する不安も相まって金利は上昇、ドル高再来となる可能性が極めて高いと思います。

そうすると、トランプ大統領の支持率は世間の評価と違って大幅上昇もあり得るのではないのでしょうか。

相場指南道場

トレーダーあすなろ物語 (380)

中原 駿

青山のオフィスは独特の緊張感があつた。

それは、上野の会社にしては先進的な設備を備えていたし、独特のオフィスレイアウトを持っていたからだ。

端的に言えば、円形というかオクタゴンのような配置となっている。それは90年代にテレビでよく見たディーラーが出てくる机のようであった。

それもそのはずで、当時いくつかのブローカーは銀行の資本を入れることで安定化を図っており、上野の銀行は中でも上位の日本フォレックスと提携したため、このような機材をディーリング・ルームに入れることができたし、その結果テレビ取材も受けることができるようになった。

第六感の



ボトムを見たか

テクニカルアナリスト 葛城 北斗

サブサイクル上昇期ながら懸念のフォーメーション

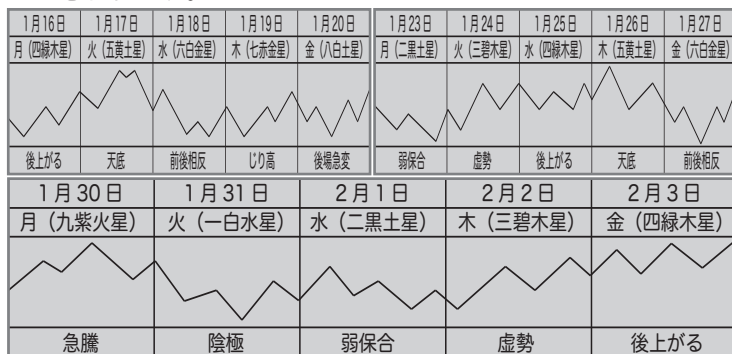
ドル円相場はサブサイクルのボトムを確認したと見られる。先週のコメント「ドル円の7～11週サブサイクルは今週は11週目。通常なら今週で終わるはずだ。先週の安値を更新しなければ、ボトムは既に付けた可能性が高まる。押し目はどこでも買いで対処したい。ただし、3円幅が簡単に動くご時勢、最低でもストップを110円割れの引け値に設定しておきたい」。1月24日112.52の安値をつけ、僅かであるが、1月18日安値112.53を更新した。

ここで15日スローストキャスティックスは強気オシレーターダイバージェンスを示した。指数は安値を更新せず、相場は安値を更新。僅か1銭であるが、この事実は強気シグナルである。今週この安値が下抜かれな限り、ここでボトムを付けたと判断。安値を更新したとしても、サイクルボトムの時間帯は過ぎているので、やや延長型サイクルのボトムとして判断され、トリプルボトムとして認識。

過去2週間のコメント「次の新サブサイクルの上昇期では現行サブサイクルの高値を更新すると予想される。このケースでは少なくとも2015年6月の高値をテストするか上抜くことも想定できる。110円を引け値で割り込むまでは1年サイクルの上昇期が続いていると判断する。しかし110円を割って引けてくると、1年サイクルのトップアウトを確認する。このケースでは残念ながら前半は円高が続くことを意味する」。

さて、九星波動は来週から月盤が《九紫火星》から《八白土星》に変わります。前月盤で反転したドル高トレンドも、少なくとも新月盤《八白土星》の中旬まではドル高トレンドが継続するのではないのでしょうか。

マーケットがシラケていたとしても、国民の反対があったとしても、トランプ大統領の施策が実現できる可能性は、案外高いと思われます。



いわば、きれいなここの絵が撮れる場所になったのだ。だが、今日はテレビはいない。

いるのは、常務役員と為替トレーディング部門の部長、そして各拠点の資金・為替担当のチーフ・トレーダー。

いわば、銀行で言えば管理職に相当する面々であった。

そこでは、主に各市場の状況と今後の方針について話されるのだった。

冒頭、本部の為替資金部から米国経済の動向、およびその分析が話される。そのあと、各国のポジションと方向性について大まかなコンセンサスを作る。

そのあと個別のポジションについて討議が始まる。

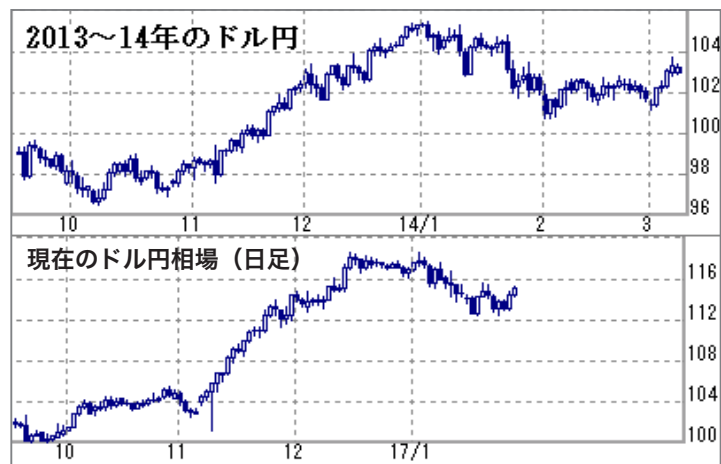
最初に米国のファンダメンタルズと金利の方向性。ここは、いつも決まっていた。この銀行は、金融緩和しか見ないのだ。あるいは、長短金利差についての強い信仰であった。

この銀行にとって、長期金利は絶対下がるものであった。

1年サイクルの天井は2月末から4月にかけて到来する。現行新サブサイクルが1月18日から始まっているとすれば、その目標値は121.10±2.07となる。

しかし120円を超えることに失敗すれば、2014年のアノマリーが復活する。先週、過去3年のアノマリーを指摘した。即ち、「…2014年以降、3年連続、今年も含めれば4年連続……1月は下げで始まる。特に14年、15年1月はその前年からの上昇が今回同様、何れも一本調子の急騰を演じた後からの調整になっている」。

特に2014年の相場には警戒したい。102円±1円のレンジ相場が2月から8月まで続いた。120円超えに失敗すればこの調整を視野に入れておく。112～113円台を買えた中期投資家は110円を割るまでロングを維持する。



サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

【第25回】ユーロ／ドル相場のサイクルについて（4）

ユーロ／ドル相場のサイクルの変遷に関する記述も今回でひとまず終了。最後は週足サイクルの分析です。『MMAサイクルズレポート』や週刊の『MMAカレンシーレポート』でのプライマリーサイクル（PC）は23～37週。つまり30週±7週で節目となるボトムが、週足レベルで出現するとメリマン氏は仮定しています。2014年の棒下げがこの仮定を揺るがせた印象がありましたが、2014年6月から2015年3月までの40週に及ぶ延長PC以外は、ほぼ上記の日柄で安値をつけています。

この相場は1月3日の安値1.0341で長期16.5年サイクルのボトムをつけた可能性があると指摘してきましたが、もしそうであった場合、先述15年3月安値からの週足サイクルは38週、29週、28週でPCボトムが出現したという事になります。

このPCのサブサイクルは2つのハーフPC（12～18週）か、3つのMC（8～12週）で構成されますが、15年3月の安値

からのサブサイクルを見ると、全てハーフPC 2つで構成されており、合計6つのハーフPCを確認。上げの日柄を見ると強気で最大10週、弱気で最低2週、平均7週上げています。

現行PCは1月3日安値から今週4週目。日柄的にはまだ若く、日柄的にはあと数週間の上昇余地はあると見ます。現行サブサイクルがどのあたりで天井をつけるか、修正安局面に入った際に何処まで押すか、PCの起点を割り込むか否かが、週足サイクルから見たこの相場の注目ポイントになるでしょう。



メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

2月を前にのるかそるか

1月27日、日経平均株価が週の高値をつけた。ドル／円とユーロ／円は翌28日に週の高値をつけている。この時間帯に関して先週次の通り述べた“本格的な反転場面があるとすれば、それは今週末28日付近ではないか。これに関して先週次の通り述べた“…星回りから見ると28日付近が怪しいと筆者は見ている。…短期トレードはこれ以外に火星の動きに注目するとよいかもしれない。火星は昨年8月3日に射手座、9月27日に山羊座、11月9日に水瓶座、12月19日（水星逆行開始日）に魚座にサインチェンジした。実勢相場は8月4日に安値、9月27日に安値、11月9日に安値、12月21日に高値が出現している。現在魚座に入居している火星が牡羊座にサインチェンジするのは1月28日。まさに水星逆行シャドウ期が終わる（水星が逆行開始時の天体配置のところまでに戻る）時間帯にあたる。

星で上下を推測する事は出来ないが、この付近は何らかの節目の時間帯になるのではないかと。…28日は新月。更に日本時間では金星・土星スクエアが発生。12日の時のように主要天体位相が集中している。30日（日本時間）には水星・冥王星コンジャンクション（0度）も発生する”。今週反転下落するか、それとも更なる上昇を指向するのは星回りからは判らない。ただ先週は株式市場に関してこうも述べている“次の節目は2月1～6日がその候補となる。この時間帯では1日に水星・天王星スクエア、2日（日本時間3日）に水星・木星スクエア、3日（日本時間4日）に金星サインチェンジ、4日に上弦、6日に木星逆行が始まる。株式の節目と木星に関連する天体位相との間には相関性がある”。先週末の上昇が今週も続くようなら上記の時間帯で株式、特に日経平均は急反落するかもしれない。

また2月2～12日はヘリオ射手座ファクター。金とユーロの急騰急落の特異日。今週木曜日前後での相場の急反転に注意したい。積極派と違い、慎重派にはポジションの減玉を推奨する。

高く仕入れて安値で投げる投資家から
脱却してアクティブブシニアになろう！

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた
「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

- ◎マイナス金利時代に株を持続
けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例
で銘柄発掘の心得を公開！
- ◎株式投資の実践編として〈有望
銘柄掲載〉！



株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&カンパニー

代表取締役社長

足立 真一 著

発行：開拓社 定価：1,296円（税込み）

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアストロロジー info

- 1月30日（月） はっきりしない動き
- 1月31日（火） 1年の12分の1が終わる
- 2月1日（水） 株為替に意表を突く動き
- 2月2日（木） 商品・金融市場転換点（前後3営業日）
- 2月3日（金） 金相場の転換にも要注意
- 2月4日（土） パニック現象は長続きしない
- 2月5日（日） 満玉張るべからず

FORECASTS 2017

星を読む。サイクルを読む。市場を読む。
Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

フォーキャスト2017

アストロロジーとサイクルで
2017年の相場を読み解く究極の書

レイモンド・メリマン 著 秋山日輝香・投資日報編集部 訳
投資日報出版発行 8100円（税込・送料別）

簡単・便利な『投資日報オンラインショッピング』もご利用ください。

お問い合わせ：投資日報出版（株） <http://www.toushinippou.co.jp/>
お申込みは：投資日報出版（株）
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-12-11 GRANDE 人形町6F 電話：03-3669-0278 FAX：03-3668-4444